

○書院廳印第十八號
明治十年(二月)甲第
寄席反帝規則

○第一條 寄席營業ヲ爲サントスル者ハ組合年行司加印ノ上區ハ區長郡ハ戸長ノ奥印ヲ受ケ警視廳へ願出鑑札ヲ受ク可シ但シ鑑札ハ寄席一ヶ所毎ニ一枚ヲ要スル者トス○第二條 屬籍住所氏名ヲ轉換シ又ハ鑑札ヲ遺失毀損シタル件ハ其事由ヲ記シ第一條ノ手續ニ據リ更ニ鑑札ヲ願受ク可シ但シ毀損ニ係ルハ區戸長ノ奥印ヲ要セス○第三條 鑑札ハ他ニ貸與スルヲ得ス其廢業ノ時ハ第一條ノ手續ニ依リ之ヲ返納スヘシ但便宜書留郵便ナ以テスルモ妨ケナシ○第四條 該營業者ハ警察署一管内ヲ一組トシ組合中ヨリ年行司一二名ヲ置キ諸事取締ヲ爲ス可シ但組合ハ人數ノ多寡ニ依リ警視廳ノ認可ヲ受ケ他ノ警察署管内ト合併スルヲ得○第五條 該營業者ハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲ケ夜間ハ標燈ヲ用フ可シ

寄席屋號氏名

寄席=於テハ左ノ項目ノ外演藝セシム可ガ
落語、淨瑠理、唄、音曲、寫繪手品、探人形〇

事ナ害シ正邪ヲ誤リ倫理ヲ亂リ其他醜惡ノ所
ナ爲サシム可カラス〇第八條 客席ヲ暗黒ニ
テ遂ハノ休憩所ニハラヘリ

前ニ表出ス可シ但圖ヲ賣リ其他種々ノ名義ヲ
從ズ可カラズ○第十九條

○第十一條 警視廳ノ免許鑑札ヲ携帶セサ
イ演習セシム所ガオカ但藝人ヲ交換スル毎ニ

及藝名技藝等ヲ詳記シ所轄警察署へ届出ツ可
除本則中演藝ニ關スル條項、藝人ニ於テモ規

第十三條 夜間八十二時限閉席又可
此規則ニ違犯シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處
第十五條 北營美者、甲子、ミニニ

第一五
布達ニ依リ其營業ヲ禁止若クハ停止スルヲア

六年十月二十日

住

年十月廿日
林學校教授 楊商務機少書記官 中村彌六

事新報

國ニ於テ日本人民貿易ノ規則並ニ稅則

如々本月十五日ナ以テ我政府ハ「朝鮮國ニ於貿易ノ規則」ト解スルモノナ發布ヒラノマリ

英國ニ於テ貿易ニ從事スル我日本人民ノ運革

ニラ本年七月二十五日朝鮮漢城ニ於テ辦理
一鄭氏ト晉華交涉頭商務閱休穆氏ト各奉入

ニ依テ協議決定シ南國政府ノ准可ヲ得タルモ
又此規則ハ七月二十五日より百日ノ後ニ至

アリサノミツアミ月二日ヘ正ニ御歸伊丹ア

卷之三

卷之三

200

卷之三

卷之三

○英國戒嚴と露國は日本備を張り兵卒三万六千人を社に命じ臨時に兵車を準備を吩咐し船舶は皆私有汽船を編成し其諸の輸出も停止し境界の波蘭より一朝開戦ふ至るハ總て編成になり居るべたり

○佛國新聞の議論
九月二日付
毎夕新聞の大半は近頃全土を要求する迄に至りして援軍を派遣すべし趣向家へ電報もあり

○長與專齋君 同衛生らんとせしものあれど土を併呑するよ至るもの

○徳大寺實則君 同君へ到着し夫より來月十九日滿期辭職せしよ付

○清浦謙官補 略て北洋も自今年春九百六十圓解纏の東京丸に搭し坂和歌山縣令 前號ふ

○檜垣青配官歸京 略て北洋前川警部の爲に負傷し

○警部死去 過日來屬し増垣内務少書記官の佐は工兵會議を命じ兼務 阿部工部相少輔を免職兼補 去る廿日第

木歩兵少佐ハ本職を免職兼務と命ぜられたり其職務の一月苦くま

將官會議 謂軍事官將官の佐は工兵會議を命じ兼務